

あの、
今何度でしょうか？



1 過去の告白

私、きっと何か失ったんだ。
ずっと彷徨って探してきたんだ。

でもあたかも出口の無い迷宮のように、
もうバランスを崩して転んだところだった。

私、何かほしい。





コッピーされた町。
光も、ビルも。
温度も。

たぶん罪の償いをするかもしれない、長い無用な人間であつた私、絶望感が籠つた真つ黒な部屋に、点滅するエアコンの赤くて丸い光のように怖

かった。

ここに、
ここに。

誰もいない。

門の上にはナンバーたけだ。

no.1

no.2

no.3

.....

数字でネミングするってこの規則ですか。





「

いやー

それぞれ自分の名前があるんだよ。
数字もあるわよ。

疲れた生命。

」



君はどこにいるの？

「今公園にいるんだ。

絶対、絶対ここに。
絶対って、そのとき君はそう言ったんだ。」

いや、言えない。
絶対って、何だろう？ これは本当に存在しないでしょ。
「嘘じゃない。今、私ここにいるんだ。」

私はずっと君が探していなかったモノを
探している。

2
彼女





詳しく言えば、ピント
でもスキャンして見た

港。
遊園地。
ビール祝日。

港湾。
夜明けた港、夜の港。
紺青の海。

絶対値

合わせたとき、確かに自分も同じ場所に。
ら、それは写真の中の写真ですかコピーされたシーンか。



彼女

同じ軸に生きている
真つ逆な方向

正負

同じ原点





彼

私の分身
魂がもう一人の体で宿っているはずだ。

毎日何を飲む、食べる

でも、私たちは知らぬ人。





3 月 日



精神は幻の境界、
魂も続けて踊る。

消えた明

いことだ。

夢想家は末期に生まれた。末期とはこの時期が人生の終わり段階である

一輪回った生命周期

すぐゲームオーバーの人々は、誰よりもこの塵世で巨大な吸引力を名残り惜しく思つて、別れたくないけど、同時に他の世界の強い力を感じつて無情な時間帯に引きず遠くて、遠くて。

戻れない。

ってないけど、どんどん時々向こうから声が聞こえる。

彼女はまだ新たな世界に入

早めに歩き出した体にひきかえ、魂は確実に遅れた。

現在と過去の全て果たして肉体の軀壳の奥に残る。





「
深淵をじっと見つめている

深淵も君をじっと見つめている
」





主なモノはいいだけでなく、周りのものをよく考えて

もの自身より、かれらの関係を吟味した後に書いて、それはもつと重要だと思います。

君がずっと探していたのはこれじゃなか。
モノの仕組みを知るには、その上に立って臨むしかできない。





空港や駅など、いろいろな目的地を囲んでる集合場所は神聖な場所です。

違う直線を一点に交わる。

信仰は絶対もの。

信仰とは、特定の対象を絶対のものと信じて疑わないこと。
この変幻極まりなし世の中、一つ変えないものは信仰のみだ。
心から支えて最後までやりますと思います。

それは自分の確認。







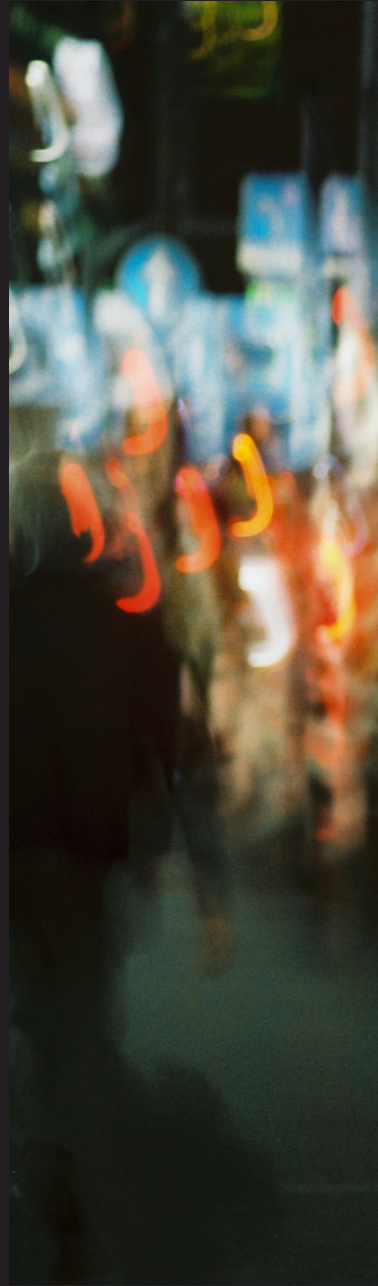
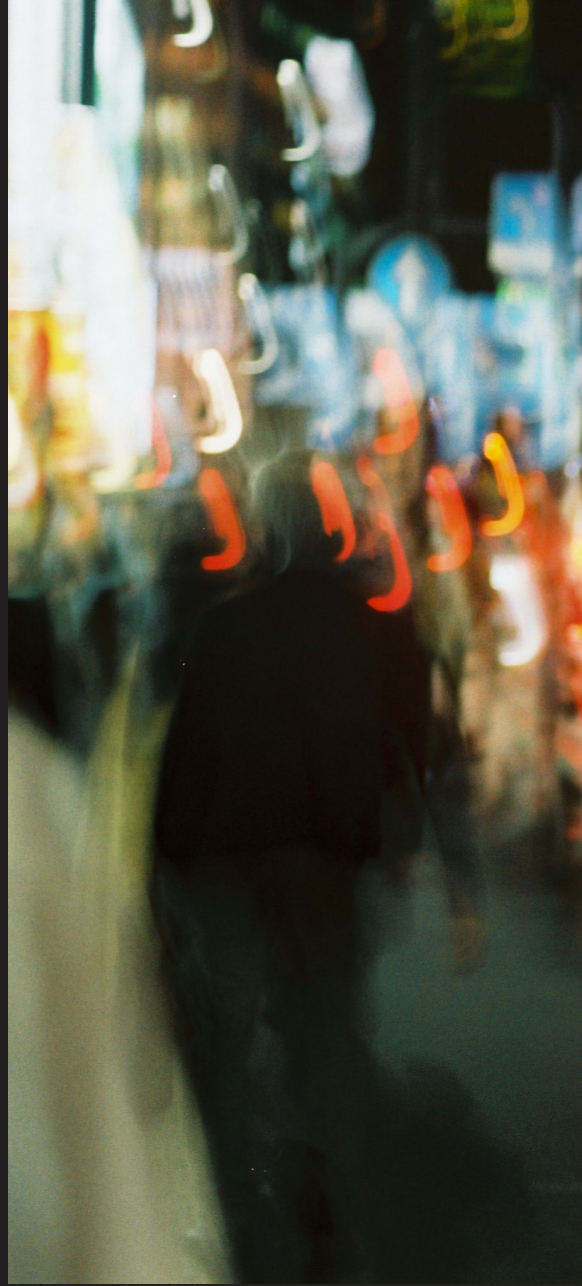
三つの
ここに沈んだ

の自分
で消えた













海！

海に着た！

私は海辺に生まれなかったから、ずっと懂れて。

うみ！うみ！うみ！

踊！踊！踊！。

すぐ靴を抜いて、砂浜に走っていた。そこに大きなテンプレートがあった。ある男はギターを弾いた。

精神境地の最高！

大声で叫んだ。日本に来て初めてそんな大きい声で。

白い沫。

赤いドレス 白い真珠イヤリングピリピリして霞んだ
私

太ももは濡れた。裾もびしょりした。

自然の恵み。いいね。
ゆっくりした。

青い海 ピアノ 赤い幕。
グリーン電車。

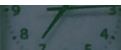
その時と言ったら、あるフランス映画を思い出した。 > Amélie < です。
> Comme Dun Aure Fire L'apres Midi < 。

逆光 ボサボサの髪
赤いドレス
肌

癒させた。
海に。



← 各 停 片瀬江ノ島 19:22 6駅す。







1
過去の告白

2
彼女

3
消えた明日、
夢想家

0
後続